

2008年日本東洋医学会 学術総会

これからの日本の鍼灸を作る ～教育の観点から見えてくるもの～

医療連携に向けた 新しい鍼灸教育について

後藤学園中医学研究部長 兵頭明

自治医科大学

2005年に、20回の中医学セミナーを行った

◆受講生は、医師・医学生・看護師ほか

10以上の診療科から合計34名。

医師が約7割。

→2006年4月

麻酔科・鍼灸外来がスタート

→2008年5月

緩和ケア病棟との連携がスタート

「鍼灸外来」
18日開設
自治医大に

診察後、自由診療で

全国大学病院に導入相次ぐ

自治医科大学は、18日、鍼灸外来を開設した。これは、同大が初めて開設する鍼灸外来で、18日より、麻酔科と併設して診療を開始する。同大は、鍼灸外来の開設を機に、緩和ケア病棟との連携を強化する方針を示している。

自治医科大学は、18日、鍼灸外来を開設した。これは、同大が初めて開設する鍼灸外来で、18日より、麻酔科と併設して診療を開始する。同大は、鍼灸外来の開設を機に、緩和ケア病棟との連携を強化する方針を示している。

「中医学という**共通認識**」を身につける意味

中医学の考え方を共有することによって何が可能となるか。

1. 病院内での中医学ネットワーク構築
2. 鍼灸治療と他科との医療連携、共同研究

例：(電子カルテなどによる)患者情報の共有
→鍼灸治療が病院内で認識される。

【**人材育成**】

3. 医学生、研修医に対する
鍼灸教育・**指導的立場の確立**。
→長期ビジョン

例: 牧田中医クリニックの試み (鍼灸系)

以前からあった「研修コース」を、ここ数年で大幅に構築し直した
→ 結果、より多くの人材が短期間で効率的に学習できるようになった

座学・注意事項の確認
(STEP1: ビギナーコース)



学生同士の練習
(STEP2: ジュニアコース)

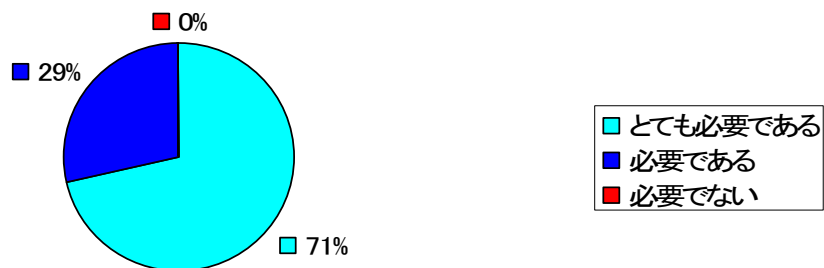
病棟内の研修
(STEP3: シニアコース)



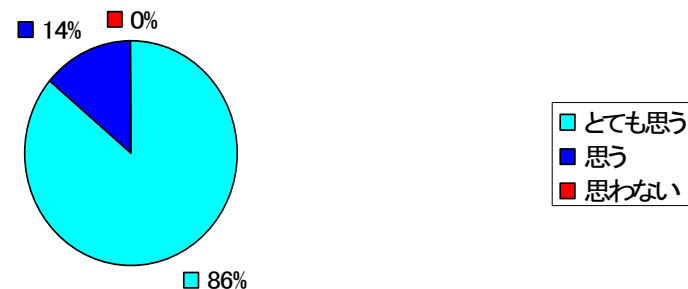
後輩の指導 (指導力の修得)
(STEP4: マスターコース)

研修生へのアンケート

4. これからの鍼灸専門学校教育において病院病棟の実習は学生にとって必要だと思いますか



6. 専門学校の学生の卒後研修として病院での鍼灸研修が可能になれば良いと思いますか



※アンケートの対象は、牧田の研修を終了した後、今現在・学校で鍼灸教育に携わる者(約30名)、つまり教え子に直接調査したもので、かなり強いバイアスがかかっている。

「研修が必要」と考えている者は100%である。

また、「自らの教え子にも研修させたい」と思っている。

→好循環のキッカケになり得る

牧田総合病院

2006年に、牧田総合病院(東京都大田区)の院内学会で「東洋医学と西洋医学のコラボレーション」を発表

①健診センター (人間ドック)

②統合リハビリテーション

③メンタルヘルス

④高齢者医療

以上に関して提案をし、
①②に関しては既に実現。

牧田総合病院附属健診センター

牧田中医クリニックの鍼灸師との医療連携

一泊ドック受診者の希望者を対象

中医学の観点からみた「健康度チェック」の講習

「東洋医学健診」を 2002年より実施(現在まで2000名が受講)

東洋医学コアカリキュラムの中に 鍼灸の紹介を行っている大学

1. 聖マリアンナ医科大学
2. 京都府立医科大学
3. 慶應義塾大学 医学部
4. 東海大学 医学部

1. 聖マリアンナ医科大学

■ 鉈実習の前後に、鉈のイメージに大きな変化があったが、特に疼痛や恐怖感、鉈の長さに関する認識には著しい変化があった。

(2002年『医学教育』6月号)

2.京都府立医科大学

■ 明治鍼灸大学 矢野忠先生が
「鍼灸の理論と実際」を担当

- 経絡とツボ、鍼灸治療の対象となる疾患
- 鍼灸の方法(デモンストレーション、実技)

(日本東洋医学雑誌2002年Vol,53,No6)

3.慶應義塾大学 医学部

■「鍼灸入門」では、歴史、日本における発展過程などを解説する。

- ・ 愁訴をもつ学生が被験者として講師が施術を行い、効果が迅速に現れることを体験させている。
- ・ 学生自身が行う実技に関しては、バナナに鍼を刺して感触をつかませている。

(『医学教育』2008、39(2))

4.東海大学 医学部

体験型実習を採用

■講義前と実習後の意識変化について考察。

ふだんは接する機会が少なく、正しく認識されない傾向にある鍼灸に対し、このような体験型実習が医学生に興味と理解を深めるきっかけとなり得ることがわかった。

さらに、将来の診療に鍼灸治療を積極的に取り入れたいというアンケート結果を考慮すると、医学部必修科目として、このような体験型実習が広まれば、将来、鍼灸治療は現代医療の中に広く普及していく可能性が出てくるものと考えられた。

(全日本鍼灸学会雑誌 2008年5月 第58巻3号)

4-2.東海大学医学部学生に 必修科目として行った鍼灸実習とその成果(01)

体験型実習を採用

■ 2008年 「第57回全日本鍼灸学会」より

【学生の意識調査】(116名対象)

Q:将来医師になったとき、どのように鍼灸とかかわりたいですか。

- | | |
|-------------------------------|-----|
| ①診療の中で自分自身が鍼灸治療を行ってみたい | 16% |
| ②自分自身は鍼灸治療を行うつもりはないが積極的に紹介したい | 42% |
| ③患者が希望すれば鍼灸治療を紹介してもよい | 41% |
| ④特に鍼灸治療を紹介するつもりはない | 1% |
| ⑤わからない | 0% |

鍼灸学校の卒業生を対象に 卒業研修を行っている大学

1. 大阪医科大学麻酔科学教室
2. 東京女子医科大学東洋医学研究所クリニック

1.大阪医科大学麻酔科学教室

- 1966年(昭和41)年8月ペインクリニックの外来が開設
- 当初より鍼灸師が治療スタッフとして治療しており, 神経ブロックと鍼灸治療が同時に同施設内で受診することができる。
- 現在, 常勤鍼灸師2名, 実習鍼灸師は多い時で35名。
- 現在は22名が治療に携わっている。
- 外来患者は、平均して70~80名, その半数が鍼灸治療を希望している。

2.東京女子医科大学東洋医学研究所クリニック

鍼灸学校の新卒を対象に鍼灸研修制度を実施

- 漢方治療と鍼灸治療の2つの診療部門より構成されている。
- 鍼灸部門には現在5名の鍼灸師が勤務。
鍼灸臨床の他、臨床研究、学会発表、医学生・医師への教育、啓蒙活動などを行っている。
- 平成17年度から、鍼灸師の卒後教育の場として研修制度を開始。研修は助手活動を通して基本的な臨床技能を身につけることを目的としている。

東邦伝統医学研究会・実践東洋医学講座

臨床家向け：1日4コマの漢方講座(67名参加)

4コマ目が「鍼灸」と「漢方」の選択

「鍼灸」の選択者は33名

内、医師18名・歯科医師3名

アンケート送信総数 21枚

回収数 21枚

回収率 100 %

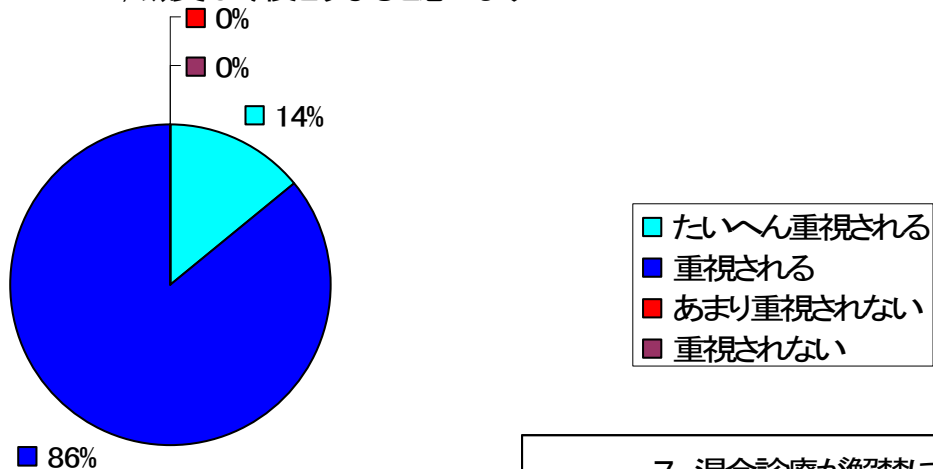
伝統医学の両輪



古代中国に端を発する伝統医学は

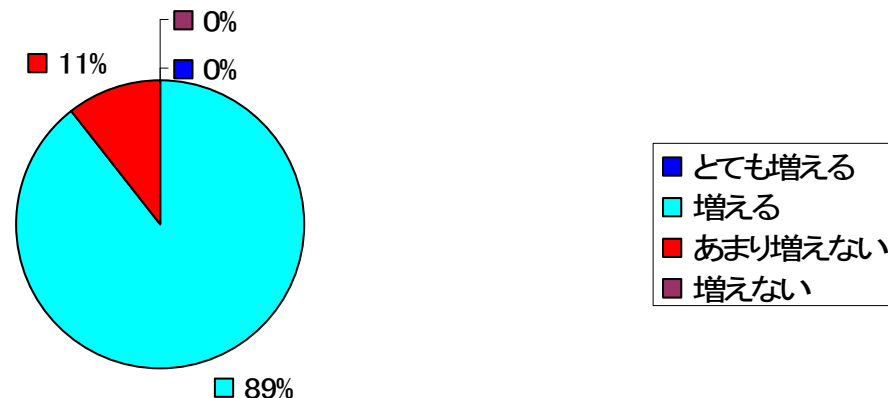
「薬」と「鍼・灸」の両輪である。

6. 鍼灸は今後どうなると思いますか



■ たいへん重視される
■ 重視される
■ あまり重視されない
■ 重視されない

7. 混合診療が解禁になれば、鍼灸治療を導入する診療機関は増えると思いますか



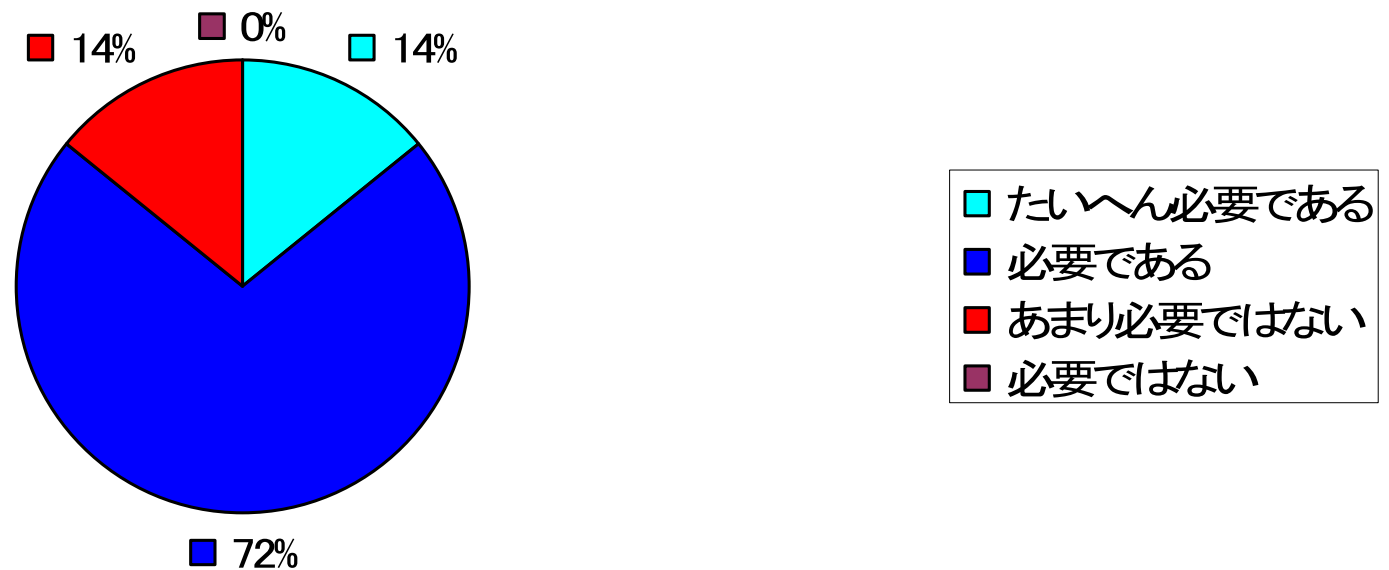
■ とても増える
■ 増える
■ あまり増えない
■ 増えない

■ 東邦・ツムラ「実践東洋医学講座」に参加した医師へのアンケート。

東邦伝統医学研究会・実践東洋医学講座

臨床家向け講座 【鍼灸の意識調査】(33名対象)

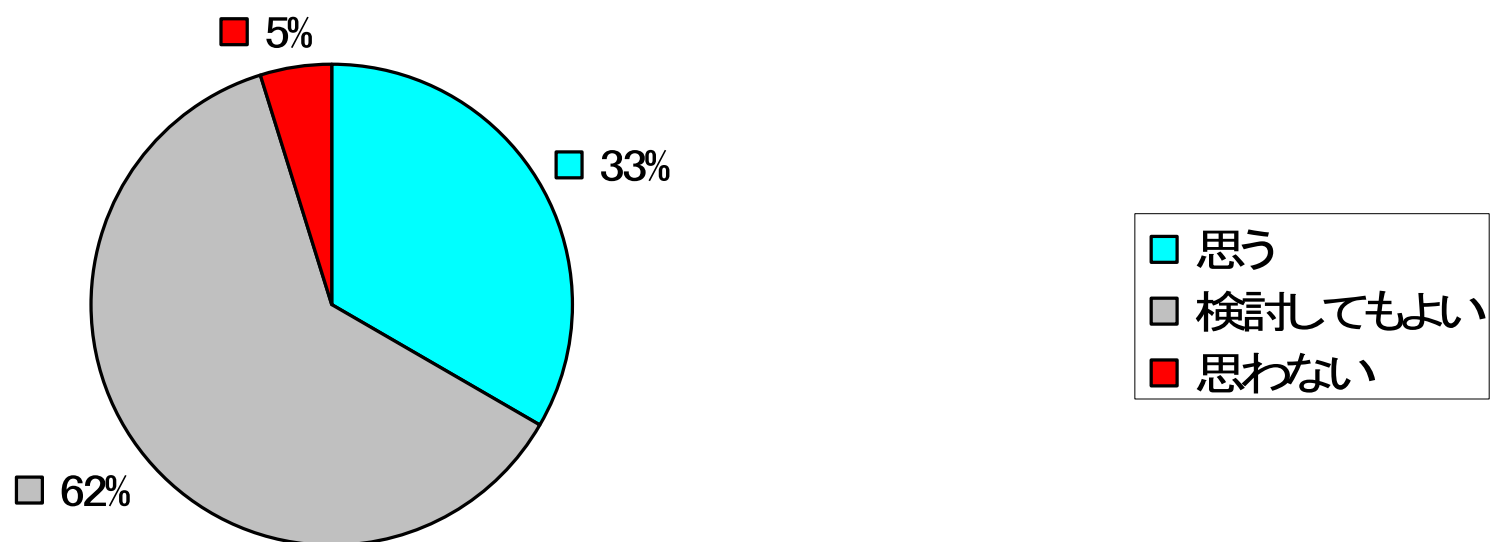
5. 医学部教育の東洋医学コアカリキュラムに鍼灸の授業は必要だと思いますか



東邦伝統医学研究会・実践東洋医学講座

臨床家向け講座 【鍼灸の意識調査】(33名対象)

8, 混合診療が解禁になれば、鍼灸師を採用しようと思いますか



漢方医学教育の大学卒前教育の充実から 卒直後教育への拡がり

課題:コマ数も教育内容も大学によって異なり、
カリキュラムの標準化、教育を行う人材の育成が急務とされる。

2008年1月の時点で、

8コマ以上を必修科目としているのは62大学、

漢方外来を設置しているのは65大学

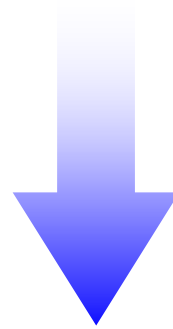
漢方教育のための教官育成のFDを実施しているのは52大学
(Faculty Development)

(Japan Medicine 2008年2月29日)

スタンダード化

過渡期であり、急激にニーズが高まる中、
スタンダードな東洋医学教育を早く構築する必要がある。

e-ラーニング、オンデマンド教育など、“より多く、より広く”のシステムで、
東洋医学の**基礎学は教育の標準化**が意外と早く計れるのではないだろうか？



実技・実習をどうするか？

指導者が足りない！

Faculty Development

熊本大学 → 「熊本大学 東洋医学教育研究会」を発足(2008)



大分大学、宮崎大学、鹿児島大学とネットワークを構築

(教員育成のためのFD)

2008年八月、第一回「漢方医学教育研修会」開催予定



大学連携

医薬連携

医工連携

医工薬連携

東洋医学参入の可能性は？

戦略的大学連携支援事業

平成20年度要求額 50億円(新規)

～国公私を超えた大学間の戦略的な連携の取組を支援し、地方の大学教育を一層充実～

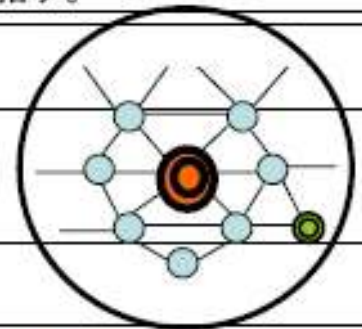
経済財政改革の基本方針2007(19.6.19閣議決定)

○国公立大学との連携による地方の大学教育の充実

- ・国公立を通じた地方の「大学地域コンソーシアム」の形成を支援するための措置を平成20年度から講ずる。
- ・国公立を通じ、複数の大学が大学院研究科等を共同で設置できる仕組みを平成20年度中に創設することを目指す。

事業目的

- 各大学の資源の有効活用による地域における国公立大学の教育研究環境等の充実
- 大学間の連携強化による個性化・特色化の加速、教育研究水準の更なる高度化



現状・課題

- 地方の大学、特に地方の私立大学が地域活性化等に果たす役割は大きい
- 現存する大学コンソーシアムの機能は限定的であり、多様なニーズに対応することは困難
- 地方小規模大学単独の人的・物的資源では地域の知の拠点としての対応に限界
- 地域における各大学の資源の有効活用、教育研究環境の整備が不十分
- 大学の機能別分化を推進するため、個性・特色ある複数大学間の連携強化が必要

事業内容

- 戦略的な連携により事業目的を達成するため、将来目標を含む具体的な「大学間連携戦略」を策定
- IT等を活用した教育研究設備のネットワーク構築
(教育研究設備の新規整備と共用促進)
- 大学連携による共通・専門教育の先進的なプログラム開発
(複数大学の共同による学位授与、連合大学院等)
- 地域の教育研究資源の結集による知の拠点としての機能を強化
(産学官連携、豊富な生涯学習教育の提供、国際交流など)
- 大学間の連携による効率的かつ効果的な大学運営
(事務局機能の強化)

全国の各地域において、「広域型」、「地元密着型」、「教育研究高度化型」など、多様で特色ある大学間の戦略的な連携の取組を促進するため、今後5年間で200件程度の取組を3年間継続して支援

日付	カテゴリ	記事
2008/05/31	同志社女子大学	フェリス女学院大学と同志社女子大学の学生交流に関する協定
2008/05/22	東海大学	東海大学と新潟大学の就職支援活動協定締結
2008/05/21	同志社女子大学	奈良県立医科大学と同志社女子大学の学術交流包括協定
2008/05/19	室蘭工業大学	室蘭工業大学と札幌医科大学の包括連携協定
2008/05/19	千葉県	千葉県内の私立大学・短期大学間及び放送大学間における単位互換制度
2008/05/08	早稲田大学	関大・早大連携協定
2008/04/25	嘉悦大学	嘉悦ケンブリッジ教育文化センター
2008/04/25	跡見学園女子大学	彩の国大学コンソーシアム
2008/04/25	武蔵工業大学	武蔵工業大学と昭和大学の包括連携協定
2008/04/25	武蔵工業大学	武蔵工業大学と多摩美術大学の包括連携協定
2008/04/25	武蔵工業大学	武蔵工業大学と室蘭工業大学の包括連携協定
2008/04/25	武蔵工業大学	世田谷6大学コンソーシアム
2008/04/24	高崎経済大学	公立三大学連携
2008/04/24	一橋大学	四大学連合
2008/04/24	京都府立医科大学	京都工芸繊維大学、京都府立医科大学及び京都府立大学の包括連携協定
2008/04/24	京都府立医科大学	京都府立医科大学と明治鍼灸大学の学術交流協定
2008/04/24	京都大学	京都大学と慶應義塾大学の連携協力
2008/04/24	京都大学	京都大学と早稲田大学の連携協力
2008/04/24	大阪大学	大阪大学と関西大学の学術交流協定
2008/04/24	広島修道大学	広島修道大学と広島工業大学の学生交流協定
2008/04/24	千葉大学	千葉大学と千葉工業大学の単位互換制度
2008/04/24	滋賀大学	滋賀大学と滋賀県立大学の単位互換制度
2008/04/24	津田塾大学	EUIJによる単位互換制度(EUコース)
2008/04/24	津田塾大学	TAC単位互換制度
2008/04/24	東京大学	東京大学、京都大学、慶應義塾大学及び早稲田大学 大学間学生交流協定
2008/04/24	東京女子大学	神戸女学院大学と東京女子大学の特別聴講制度
2008/04/24	東京女子大学	東京女子大学と東京外国語大学の単位互換制度
2008/04/24	東京女子大学	武蔵野地域五大学
2008/04/24	中央大学	大妻女子大学と中央大学間の単位互換制度
2008/04/24	京都大学	京都大学と立命館大学の連携協力
2008/04/24	一橋大学	一橋大学と津田塾大学の単位互換制度
2008/04/23	早稲田大学	早稲田大学と東京家政大学 単位互換制度
2008/04/23	早稲田大学	f-Campus

国の戦略的大学連携の活用 [大学間連携]

1. 東洋医学コアカリキュラムの
共有化と独自性の発揮
2. 医学部と鍼灸大学、鍼灸学部との連携
3. 鍼灸大学、鍼灸学部の連携による
伝統鍼灸大学(学部)の設立

統合医学医療実現に向けて

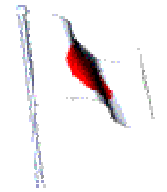
10年～15年後の統合医学医療実現に向けた
広い医療ネットワーク構築

西洋医学は全ての医療職種の「共有」によって
種々の医療連携が可能となっている。

東洋医学の「考え方を共有すること」により
新たな医療連携の可能性をさぐろう。

鍵:すべての医療系学生に東洋医学の考え方を学ぶ機会を
(オンデマンド教育、eラーニング)

近未来の日本の医療のために



漢方・鍼灸に、医学生の内に接点を持たせる

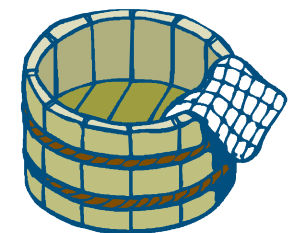
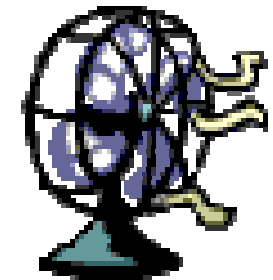
漢方・鍼灸を認識する臨床医家が増える

漢方・鍼灸を理解する臨床医家が増える

漢方・鍼灸を利用する臨床医家が増える

漢方・鍼灸を利用する患者が増える

医療費削減、日本の未来は明るい！



鍼灸関連業団・学会・学校の統合による 鍼灸医療推進研究会

2006年、「国民のための医療推進を目指す」ことを目的に発足

(社) 東洋療法学校協会

(社) 全日本鍼灸学会

(社) 全日本鍼灸マッサージ師会

(社) 日本鍼灸師会

鍼灸医療推進研究会

研修作業部会

普及啓発作業部会

研究作業部会

卒前教育から卒後教育・生涯教育への一貫した制度を構築することを研修作業部会は主たる行動目的としている。